

岡山3大河川流域神社のデータベース

—位置情報を中心として—

志野 敏夫

岡山理科大学総合情報学部社会情報学科
(2003年11月7日 受理)

1. はじめに

筆者は数人の研究者とともに、「岡山学」と銘打って、岡山という地域を、理系・文系の研究成果を合わせて総合的に研究しようとする試みを行っており、現在、岡山に流れる3大河川の一つ、吉井川流域を題材に研究している。そこでこの研究に資するべく、3大河川流域ごとに分けて、その流域にある神社をデータベース化しようというのが、今回の研究である。とはいえ、このデータベースは、「岡山学」研究にのみ有用なものではない。

神社を研究するということの意義についてはいまさらあえて言うまでもないであろう。歴史学や民俗学の立場からなど、いままで多くの研究が行われ成果を挙げてきた。そしてその研究は、(1)個々の神社を扱うもの、(2)丹生神社や住吉神社など神社の種類ごとに研究するもの、(3)ある特定の地域に特徴的な神社群を扱うもの¹⁾、に大別されるだろう。しかしつまるところ、神社研究にとって重要なポイントは、「どのような神社が、どこに、あるのか」という点に集約されるのではないだろうか。したがって今回は、まず神社の位置情報を主としたデータベースの構築を目指した。この位置情報は、こうした従来の研究成果と合わさることで、新たな研究を展開させることができるであろう。例えば、緯度・経度で示された位置は簡単に座標化することができる。一方で、地質図や植生図、あるいは地球化学図などが電子地図で作られている。したがってこれらを組み合わせることで、神社がどのような特徴を持った土地に立地しているかを容易に知ることができるようになる。ところでよく知られているように、松田壽男による丹生神社の研究は、丹念な現地調査を元に水銀との関係を明らかにしたが²⁾、上述の方法を用いることによって、これと類似のことを容易に、あるいは擬似的に行うことができるようになるであろう。あるいは、前述のように今回のデータベースは岡山の3大河川流域ごとにまとめて構築したが、後述のように、流域ごとに建てられている神社にある傾向を見出すことができるのである。これは、今までに為されたことがない新たな成果を期待できる研究に発展する可能性を持っていると思われる。

なお、当データベースを作成してみると、かなり多くの神社が存在していることが分かった。そのため、紙幅の関係で、データそのものを全て本論文に掲載することができない。したがって、データベースは、URL上で公開するのでそれを参照していただきたい。

2. データベースの作成

2-1 位置情報の収集

まず出発点として使用したのが、本校卒業生である田中孝幸の卒業論文「岡山県下の神社データベース」で作成された、国土地理院発行2万5千分の1地形図（以下、国土地理院地形図）への神社位置の書き込みである³⁾。田中が使用した国土地理院地形図は、昭和62年2月28日発行のものから平成10年10月1日発行のものまでとばらつきがあり、また神社の記号（**㊦**）は書かれているものの、ほとんどに神社名が記されていないため、田中は、昭文社発行の『岡山県広域・詳細道路地図—県別マップル33—』（2001年版）によってこれを補った。さらにこれにより、国土地理院地形図には記録されていない神社も多数見出されたため、それも地形図上に書き込んでいる。

しかしこれでもなお、社名の分からないものが多数存在したので、さらに、ゼンリン発行の『ゼンリン電子地図帳Z [zi:] Professional 2 CD全国版』（2003年3月発行）（以下、ゼンリンZ）と、同じくゼンリ

ン発行の『ゼンリン住宅地図』シリーズ（以下、住宅地図）によって補った⁴⁾。

2-2 データベースの構造

データベース作成には、マイクロソフト社のMicrosoft Excel 2000を利用した。項目は全13項目、まず河川名からはじめた。河川はまた多くの支流を持つので、項目としては、1.「河川Ⅰ」から6.「河川Ⅵ」まで必要となった。なお、神社によっては河川を離れた山中にあるものもあり、それらは適宜、近い水系の上流山中という形で「河川」の項目中に記載した。その後ろに、7.「地名」、8.「神社名」、9.「祭神」、10.「区分」、11.「地図名」、12.「緯度」、13.「経度」を置いた。

「地名」は神社の所在地になるが、これは国土地理院地形図上に書かれた地名によって記載した。「祭神」は、前述の田中が岡山教育委員会『宗教法人名簿』（1999年）を基に作成したデータ⁵⁾によったほか、若干の現地調査により判明したものを掲載した。「区分」は、八幡神社や荒神社などをおおよそに分類して3桁の数字で示したもので、電子地形図や地質図に神社の位置をプロットした際、一見して神社の種別が分かるようにする目的のものである。したがって、分類そのものと記号には深い意味合いはなく、必要に応じて変えても差し支えはないし、ある神社に一つの区分を与えるべきだと考えられればそれを追加しても、またその逆でもよい。例えば、「039 天神社」は、普通には“天神様”を祭ったものと考えられるので、「040 天満宮」と一つにしてもよい。ただ、「天神社」が「テンジンシャ」ではなく「アマツジンジャ」である場合もあるので、現在は便宜上一つの区分として記号を与えているに過ぎないのである。神社の種類と記号は以下の通りである。

001 青木神社	034 諏訪神社
002 朝日神社	035 総社・国司・大国・大社・オオナムチ神社
003 愛宕神社	036 高嶋・高島神社
004 熱田・アツタ神社／神宮	037 建部・武部神社
005 天津神社	038 中山神社
006 石鎚神社	039 天神社
007 石鉄神社	040 天満宮
008 石門別・天石門別神社	041 豊原神社
009 伊勢神宮／神社	042 野上神社
010 巖島神社	043 白山神社
011 稻荷	044 八幡
012 今宮神社	045 番神社
013 疫・疫隅(イミ)神社	046 日吉・山王
014 王子神社	047 布勢・布施神社
015 大宮神社	048 松尾神社
016 大山祇神社	049 真名井神社
017 春日神社	050 御崎・ミサキ神社
018 加茂・カモ神社	051 美保・ミホ神社
019 祇園	052 明見・妙見・ミョウケン
020 木野山・木山神社	053 美和・神・ミワ
021 貴船・キフネ神社	054 宗像・ムナカタ神社
022 熊野・熊埜神社	055 八坂神社
023 荒神社	056 山上神社
024 五社大明神・神社	057 大和神社
025 牛頭天王	058 由加・ユカ・ユガ神社
026 良・ウシトラ神社	059 吉野神社
027 金比羅・コトヒラ・コンピラ	060 龍王
028 猿田彦神社	061 若宮

029	三十番・参拾番	062	和田神社
030	十二社・十二神・十二柱神社	063	三社神社
031	杉神社	064	地名を冠した神社
032	素戔鳴・スサノオ神社	065	その他
033	住吉神社	066	不明

「緯度」「経度」は、ゼンリンZではカーソルを置いた地点の緯度・経度が自動的に表示されるので、それをカット・ペーストでコピーして掲載した。ゼンリンZに記載されていない神社も多数あったが、その場合は、国土地理院地形図の地点と照らし合わせながら、ゼンリンZ上で適当と思われる地点を指定し、そこに神社記号を書き込むと同時に、その地点の緯度・経度をコピーした。

データベースの構造（「吉井川」一部）

川Ⅰ	川Ⅱ	川Ⅲ	川Ⅳ	川Ⅴ	川Ⅵ	地名	神社名	祭神	区分	地図名	緯度	経度
吉井川	吉野川	#	#	#	#	英田郡西栗倉村段	入江神社	大己貴大神 大物主命 大己貴命	085	坂根	E134° 20' 54.42"	N35° 12' 35.15"
吉井川	吉野川	#	#	#	#	英田郡西栗倉村坂根	金毘羅宮	大己貴命	027	坂根	E134° 20' 09.50"	N35° 12' 00.01"
吉井川	吉野川	#	#	#	#	英田郡西栗倉村猪之部	猪之部神社	大國主命 大己貴命	084	坂根	E134° 20' 25.08"	N35° 11' 15.95"
吉井川	吉野川	#	#	#	#	英田郡西栗倉村影石	影石神社	須勢理姫大神	084	坂根	E134° 20' 09.97"	N35° 11' 04.99"
吉井川	吉野川	#	#	#	#	英田郡西栗倉村影石	天岡神社	不明	085	坂根	E134° 20' 28.27"	N35° 10' 58.88"
吉井川	吉野川	(不明)川	#	#	#	英田郡西栗倉村影石	景清神社	不明	085	坂根	E134° 20' 33.71"	N35° 10' 41.57"
吉井川	吉野川	#	#	#	#	英田郡西栗倉村関谷	大社神社	大國主命	035	坂根	E134° 20' 24.88"	N35° 10' 31.05"
吉井川	吉野川	引谷川	#	#	#	英田郡西栗倉村長尾	威徳天満宮	オオナムチ	040	坂根	E134° 21' 18.25"	N35° 10' 13.94"
吉井川	吉野川	引谷川合流	#	#	#	英田郡西栗倉村長尾	栗倉神社	オオナムチ(1)	084	吉町	E134° 20' 22.09"	N35° 09' 40.31"
吉井川	吉野川	後山川	#	#	#	英田郡西栗倉村桐尾	伏閑神社	不明	085	吉町	E134° 20' 01.93"	N35° 08' 49.78"
吉井川	吉野川	知社川	#	#	#	英田郡西栗倉村知社	岩藏神社	素戔鳴尊(2)	085	吉町	E134° 19' 27.23"	N35° 09' 09.76"
吉井川	吉野川	知社川合流	#	#	#	英田郡西栗倉村篠津	王子権現	不明	014	吉町	E134° 19' 30.21"	N35° 08' 55.84"
吉井川	吉野川	後山川	#	#	#	英田郡東栗倉村野原	天一神社	天之御中主神	085	吉町	E134° 21' 22.76"	N35° 08' 35.74"
吉井川	吉野川	後山川	#	#	#	英田郡東栗倉村吉田	吉田神社	大己貴命	084	吉町	E134° 20' 55.45"	N35° 08' 01.21"

(1) 他に、スサノヲ・トヨノウケヒメ (2) 他に、木花開耶姫命・瀬織津姫命

2-3 データベースの概要

岡山には、東から、吉井川、旭川、高梁川の3大河川が、県を南北に流れている。それぞれがまた、いくつもの支流を持っている。また、吉井川には千町川と幸崎川、旭川には百間川、高梁川には里見川がそれぞれその下流域で平行して流れている。これらペアの河川では、ある神社がそのどちらの流域の神社としていかに判断しにくいものもある。しかし、データベースとして表に作成するためにはどちらかの川の流域に入なければならないので、町や字名の変わるところを目安に、どちらかの河川の流域の神社として記載した。したがって当然、詳細なその地域の歴史を調査することなどで、その判断が間違っていた、ということも大いにありえる。そこで、吉井川と千町川・幸崎川、旭川と百間川、高梁川と里見川を合わせてそれぞれ一つのシートに作った⁶⁾。その結果、(現時点で)吉井川(＋千町川・幸崎川)では600件のデータが、旭川(＋百間川)では493件⁷⁾、高梁川(＋里見川)では797件のデータが集録された⁸⁾。

掲載した順序は、国土地理院地形図に記載されている神社を基本にした関係で、県の東から、またそれを北部から南部へ国土地理院地形図を並べた順番に沿っている。したがって当然、例えばある河川の上流から下流へ向かって順番に、という具合には並んでいない。しかし、これはエクセルで作っているため、一つの川の流れに沿ったようにするなど、研究の目的に合う並べ替えを適宜、しかもそれを瞬時に行うことができるので、エクセル表作成初期の順番にはあまり留意していない。

2-4 データの公開

前述のように、相当数のデータがあって、その全一覧をここに掲載することができないので、作成されたエクセルのデータファイルは、URLで公開する。公開するURLは、

<http://www.soci.ous.ac.jp/staff/index.html>

で、これは、岡山理科大学のホームページの中にあるものである。

そしてこの方法による公開により、この表の不備をより多くの人々によって、より完成されたものに改変していくことも可能になるのではと期待している。メールアドレスも同場所に掲載されているので、例えば不明とされている河川名や神社名、あるいは神社の所在地の間違いなどをお知らせいただければ、お知らせいただいた方の氏名とともに、新しいデータに書き換えたものを、随時掲載したいと考えている。

3. データを利用した神社研究について

3-1 流域間での特徴の発見

まず、作成された表を利用して行える研究についてである。

エクセルで作成されているため、並べ替えや検索が非常に容易である。そこで、例えば、八幡神社や荒神社など特定の神社ごとの集団だけを表示したり、それらを一覧表にまとめたりすることができる。これについては別稿で述べるつもりであるが、この一覧化によって、吉井川、旭川、高梁川で明らかな違い、つまり特徴を見出すことができたのである。すなわち、吉井川流域に多く見られる神社が、旭川・高梁川ではそれほどないとか、その逆であったりということが見られるのである。岡山は、古くから海―河川交通を軸に発展してきたが、この流域ごとでの神社分布の特徴はこうしたことによるものなのであろうか。これらのことが何を意味するのか突き詰めていくことで、新たな神社研究の分野・研究手法が開けるであろう。

3-2 位置の把握

神社の位置は、もちろん地形図に記されているので、それでわかるであろう。しかし、電子情報化された地図にプロットされたものは、また多くの可能性を持っている。

電子地図上に記された点は、多数の神社間の位置関係が視覚的にわかりやすく図示されるというだけではなく、いくつかの神社が角度何度の関係で並んでいるかを瞬時に図示することができるのである。3つ以上の神社同士が、直線状に並んでいるかどうかとかのほか、逆に30度や45度、90度など特別な意味を持ちそうな関係にあるものを検索することもできるであろう。あるいは、南北軸や東西軸など方位に対して何度の関係で並んでいるかなどもすぐを知ることができるのである。すでに出雲大社・（熱田神宮）・鹿島神宮が同緯度・直線上に存在することが指摘され、研究成果が挙げられている⁹⁾。京都にある秦氏関係の神社などの位置関係¹⁰⁾、あるいは古墳・神社群の位置関係に一定の意味を見出そうとする研究もある¹¹⁾。これらのアプローチに大きな役割を果たすであろう。

3-3 立地状況の調査

「はじめに」で述べたように、すでに地質図や植生図、あるいは地球化学図などさまざまな情報が電子地図化されている。それらはそれぞれをそれぞれの研究者が別個の意図を持って研究、作成したものであるが、

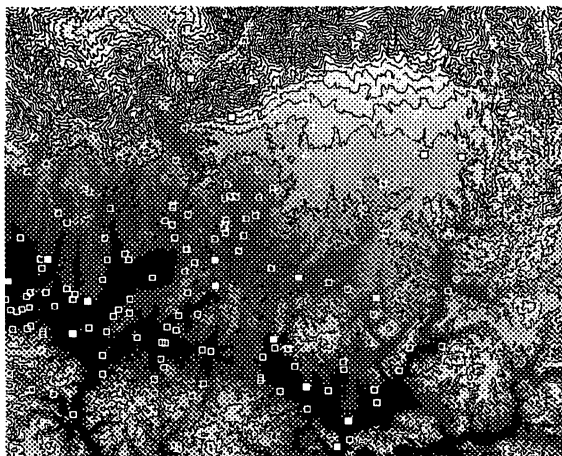


図1 地形図上にプロット、八幡神社を白塗りで表示

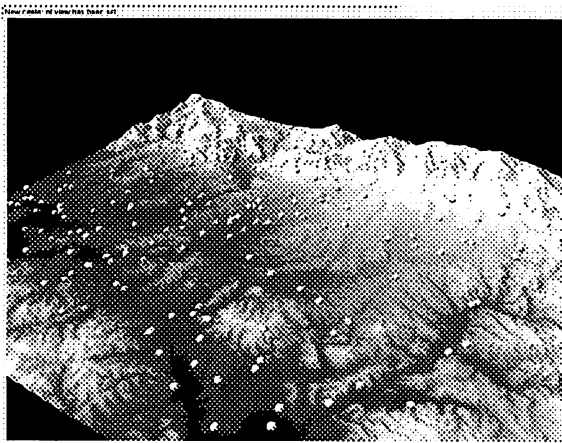


図2 立体表示した地形図

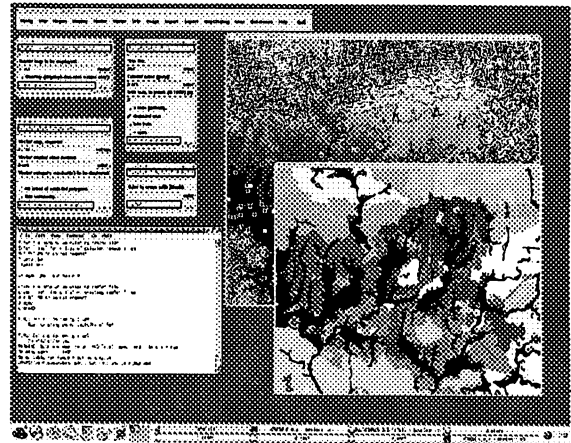


図3 地質図への転載を実行中の画面

当データベースには、緯度・経度の情報を入れているので、これをそれぞれ独自に作成された電子地図の座標系に変換すれば、簡単にそれらの地図上に神社の位置をプロットすることができる(図1、図2、図3)¹²⁾。

このことによって予想されるのは、例えば上述の丹生神社研究で明らかにされたように、ある特定の場所に特定の神社が立地していることを、容易に知ることができるようになるであろうということである。こうした例は、ひとり丹生神社だけではないだろう。鉄あるいは製鉄に関しては、かなり多くの研究がなされているが、岡山は特に製鉄が古くから重要な産業であった地域である。そのほか、地すべり地帯との関連も見えてくることのひとつとして予想されるだろう¹³⁾。

ちなみにこれらのことは、「岡山学」の研究題材として、共同研究していく予定である。

4. 問題点と課題

4-1 不明な名称の多さ

国土地理院地形図は、その名のとおりに基本的には地形を現すものであるから、細かな建物、つまりこの場合は神社や河川・山などの名称を記載していない。それを補うべく、より詳細な地図を参照して当データベースを作成した。しかしそれでもなお多くの河川・山・池・神社の名称が不明のままである。これはデータベースとしては極めて大きな欠陥といわざるを得ない。祭神にいたっては、もちろん地図に載せられている情報ではなく、現時点ではほとんどわからないといっている状態である。

これらは、当論文が公表される2004年3月の時点までに、市町村史なども利用して、できうる限り充実させておきたいが、なお不十分な部分に関しては、上述のようにURLで公開するので、多くの人々のご協力を得たいと考えている。

4-2 神社の名称を主体としていること

現段階では、位置情報を主眼としたデータベースであるため、神社名以外、神社研究に必要な神社がもつ多くの属性・情報をほとんど掲載していない。それゆえ「区分」も神社の名称によって行っているが、このことによっても問題は生じる。すでに先にも述べたが、「天神社」が「テンジンシャ」ではなく「アマツジンジャ」であるような場合があるからである。これを詳細に調べて違いを分別しなければ、大きな間違いを犯すことになるであろう。また例えば、主祭神によって区分すれば、まったく違った区分、あるいはグルーピングがされる場合なども予想される。後述のように、実際「吉井川」表の冒頭12社を現地調査してみると、入江神社・金毘羅宮・猪之部神社・影石神社・大社(オオヤシロ)神社・威徳天満宮・粟倉神社の7社はオオナムチが主祭神で、これらは一人の神主がその祭礼をつかさどる一つのグループとして考えられているのである。金毘羅宮や天満宮という名称だけで区分している場合とでは、見え方の全く違った世界が実際には存在していたのである。

神社を研究するには、祭神はもとより、祭礼の種類や行われる日時・内容など、祭殿・拝殿の位置や方向などなど、盛り込まれるべき情報は非常に多い。今後、地道な調査によってこれらの情報を、このデータベースに追加して、より充実したものに仕上げていかなければならないであろう。

4-3 現地調査の重要性～西粟倉村12社の調査例

以上の不足は、最終的にはいずれも現地調査でこそ詰めていくことのできる事柄である。

試みに、「吉井川」表の冒頭12社を現地調査してみた。

まず、諸地図上では4社の神社名が記載されておらず「不明」であったが、すべてが判明した。金毘羅宮、大社神社、王子権現、岩瀧神社がそれである。これらは実際に神社に行って、鳥居などに書かれている社名を調べることで分かったもののほか、現地に住む人々へのインタビューを通して判明したものもあった。そして、このことで同時に祭神名も分かったものもあった。ただし、現地にあっても、自分たちが祀っている祭神にはあまり興味を抱いていない人が多く、調べ切れなかったものもあった。ただ、前節に述べた7社に関しては、それを管掌・奉祭していた元神主にお会いすることができたために、多くのことを知ることができたのである。

お会いできた元神主は、西粟倉村関谷に在住の萩原隆広さん（81歳）。教えていただいたことは、以下のとおりである。これら7社の祭神がすべてオオナムチであるのは、江戸期寛政年間にまず粟倉神社を、そして入江神社、影石神社の2社を美作の一宮である津山の中山神社から勧請し¹⁴⁾、その後残り4社が分設されて現在に至っているからだという。そのため、最初の3社を高神（タカガミ）と呼んで、他より格式を上置いていた。また、この3社に猪之部神社、東粟倉村の内ノ山神社、青野神社、吉田神社、兵庫県佐用郡佐用町の奥海（オネミ）神社と合わせて「粟倉8社」と言われており、粟倉神社がこれらの本社として位置づけられているという。祭りは、10月の第1日曜日に粟倉神社で行い、その後、第2日曜日に入江神社、10月10日に影石・猪之部・金毘羅宮3社を同日で、第3日曜日に威徳天満宮、第4日曜日に大社神社と行っていく。大社神社の祭りでは、かつて、神田を決めてそこに神を遷し、相撲を行っていた。このほか、天岡神社¹⁵⁾は「妙見」ではないか、などという情報もお教えいただいた。

地域に根ざした神社の研究は、現地調査を抜きにしてはなし得ない、ということは当然であろう。

5 おわりに

まだ名称がわからない神社が多数残されているなどの不足や、現地調査の必要性など、問題点はなお多くあるが、岡山県下の神社を網羅的にデータベース化したことは、初めての試みであり、今後の神社研究に資するものが大きいと考えている。とくに、さまざまな電子化された地図の上に瞬時にプロットできることは、大きな利点であり、新しい神社研究の手法を開くものと期待している。今後は、「不明」部分をなくしていくとともに、より多岐にわたる神社に関する諸情報を掲載していきたいと考えている。

注

- 1) 田中久夫「顕宗仁賢天皇神社の分布とその背景」（『金銀銅鉄伝承と歴史の道』岩田書院・御影史学研究会 民俗学叢書9、1996年所収）など。ちなみにこれは、旧明石郡にある顕宗・仁賢天皇を祀る神社についての研究である。
- 2) 松田壽男「古代の朱」（『松田壽男著作集6 人間と風土』六興出版、1987年7月所収）。
- 3) 田中孝幸「岡山県下の神社データベース」（2003年3月）。
- 4) 住宅地図も2000年12月発行から、2003年6月発行のものまでのばらつきがある。著者：書名、出版社（出版年）
- 5) 祭神の他に含まれている項目には、『宗教法人名簿』所載の認証番号・所在地住所・電話番号・宝物・備考（神社名の読みや旧住所など）があり、エクセルで作成されているので、当データベースに合成することは容易であるが、煩雑になるので、今回は祭神のみを参照した。
- 6) それでもなお、旭川下流西側では、笹が瀬川との問題が残されている。
- 7) このほか、吉井川・旭川河口の児島湾対岸地域の神社も含めた。
- 8) 「現時点」というのは、2003年9月現在である。また現時点では、岡山県下の神社に限定したので、支流も含め、広島県を流れる部分の流域は除外した。
- 9) 吉野裕子『日本古代呪術』大和書房・古代文化叢書（1975年11月）など。出雲大社と鹿島神宮が北緯35度、熱田神宮は北緯約36度である。
- 10) 大和岩雄『秦氏の研究』大和書房（1993年8月）など。
- 11) 三橋一夫『神社配置から古代史を読む 古代史の正三角形（I）』六興出版、1986年12月など。
- 12) いずれも岡山理科大学総合情報学部生物・地球システム学科の能美洋介講師の作成による。地形図は、国土地理院『数値地図 50mメッシュ（標高）』日本一Ⅲ CD-ROM版（1997年11月）を利用して、解析地の最低標高を色番号0の黒、最高標高を色番号255の白で、その間の標高を255階調の灰色で表したものの。地質図は、岡山県企画部土地対策課『土地分類基本調査 津山東部』（1980年2月）の5万分の1表層地質図を入力したもの。そして、それらをGRASS（The Geographical Resource Analysis Support System; 地理的資源分析サポートシステム）で表示している。神社の位置は、緯度・経度をXYデータに変換して載せている。解析領域は、国土地理院の5万分の1地形図『津山東部』（1995年4月）の全範囲である。

- 13) 上掲能美講師によれば、地滑りを研究している研究者の間では「地滑り地帯には神社がない」と言われているという。神社がそう簡単に壊されては困るからであろう。しかし、図1に例示した部分だけでも、地滑りがよく起こりそうな場所にいくつかの神社が存在しているようである。ここにも新たな問題が潜んでいるように思える。
- 14) ただ一度、出雲から直接勧請した、とおっしゃったことがあった。しかし、出雲から直接なのか中山神社からなのかは確認できなかった。中山神社は、現在主祭神を鏡作命としているが、本来はオオナムチであったとも考えられており、境内にはオオナムチを祭る国司神社がある。もし栗倉の神社が中山神社からの勧請だとすると、少なくとも江戸期には、中山神社はオオナムチの神社だと人々は考えていたということになり、興味深い。
- 15) 天岡神社は、現地では「アムカ」と発音する。

The Database of *Shinto* shrines at the basin of The big3-river through Okayama — Mainly a location information —

Toshio SHINO

Department of Socio-Information, Faculty of Informatics,

Okayama University of Science

Ridai-cho 1-1, Okayama 700-0005, Japan

(Received November 7, 2003)

I constructed this database by Microsoft Excel 2000, and put latitude/longitude in them. So, you can easily find out the feature of some basins, or put shrines' locations on any electrical maps, etc. Though, it has many unknown data yet. Therefore I will investigate on-the-spots on the one hand and put this database on view at URL (<http://www.soci.ous.ac.jp/staff/index.html>) on the other. I think that this database will break new ground of research on shrine.